

# 会 議 録 (要約版)

## 1 会議名

令和3年度第1回阿賀野市水道事業審議会

## 2 開催日時

令和3年11月29日(月) 午後1時30分から午後3時30分まで

## 3 開催場所

阿賀野市上下水道局 3階 大会議室

## 4 出席者(傍聴者を除く)、氏名(敬称略)

- ・委員：小林龍幸(会長)、長谷川正衛(副会長)、荒澤浩和、百都順也  
鈴木美由紀、高橋えみ子、鈴木純、飯田武志(8人全員出席)
- ・事務局：新保上下水道局長、高橋上水道次長、武者浄水場長、石田副参事  
吉川庶務係長、菅原庶務主任(計6人)

## 5 議題(公開・非公開)

- (1) 会長及び副会長の選任について (公開)
- (2) 阿賀野市水道事業の概要 (公開)
- (3) 令和2年度水道事業の概要 (公開)

## 6 非公開の理由

なし

## 7 傍聴者の数

なし

## 8 発言の内容(○印は概要表示)

### 事務局

- 令和2年度第1回阿賀野市水道事業審議会の開会を告げ、改選後、初めての審議会であるため、会長及び副会長が選任されるまでの間、事務局で進行をする。
- 本審議会が規定により傍聴が可能であること、及び議事録は市のホームページで公開することなどの承諾を求める。
- 配布資料の確認を行う。
  - ・決算報告書 . . . . . (事前配布)
  - ・決算の概要 . . . . . (事前配布)

- ・阿賀野市水道事業の概要 . . . . . (資料1)
- ・有収水量の実績 . . . . . (資料2)

○事務局（新保上下水道局長）挨拶。

### 事務局（新保上下水道局長）

大変お忙しい中ご参集いただきまして誠にありがとうございます。

本年度から上下水道局長を拝命しました新保でございます。よろしくお願いいたします。

本来であれば、改選後の最初の審議会でありますので、市長が出席をしてご挨拶をするべきところではありますが、日程の調整がつかず、本日は出席できませんことをこの場をお借りしまして、お詫びを申し上げます。

また、委員の改選にあたりましては、皆様からお引き受けいただき、厚く御礼申し上げます。

本日の審議会につきましては、報告案件として大きく2点について説明させていただきます。一つ目は阿賀野市水道事業の概要について、二つ目は令和2年度の決算状況の概要でございます。

特に、新たに委員になられた皆様には、阿賀野市の水道について理解を深めていただけるよう、事業の沿革から現在の施設状況、そして水道事業運営の指針として策定した新水道ビジョンの取り組み等について説明させていただきます。

本日はこれらにつきましてご審議いただきたくお願い申し上げ、わたくしのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

### 事務局

○改選後初めての審議会であるため、事務局から委員を紹介し、氏名と居住地など自己紹介をお願いする。

○事務局職員の自己紹介をする。

### 事務局

○進行を新保上下水道局長に引き継ぎ、次第に基づき議題の説明に入る。

## 3 議題（1）会長及び副会長の選任について

### 事務局（新保上下水道局長）

それでは、会長・副会長が選任されるまでの間、私の方で進めさせていただきたいと思えます。

それでは、議題に入らせていただきます。

「阿賀野市水道事業審議会会長及び副会長の選任について」でございます。

これにつきましては、規定により互選によって選出することとされておりますが、皆様いかがでございましょうか。

## 委員

事務局一任の意見

## 事務局（新保上下水道局長）

事務局一任とのご意見がございましたが、事務局に一任させていただくということによろしいでしょうか。ご異議等ございませんでしょうか。

## 委員

【異議なしの声】

## 事務局（新保上下水道局長）

ご異議がないようでございますので、事務局案をご提案申し上げます。

この度、改選により、委員8名中5名の方から新たに委員に就任いただいたところです。

会長、副会長には再任いただき経験豊富な2名の方をお願いしたいと考えております。

会長には、改選前に引き続き小林委員に、副会長には新発田地区から長谷川委員に、それぞれお引き受けいただきたくお願い申し上げます。ご了承いただけますでしょうか。

## 小林委員・長谷川委員

○会長及び副会長を承諾する旨を告げる。

## 事務局（新保上下水道局）

○会長に小林委員、副会長に長谷川委員が決定したことを告げる。

【会長・副会長の席に移動】

## 会長

荒れた天候が続いておりましたが、本日は天候に恵まれ、山並みもきれいに見えます。

皆様には、ご出席いただき誠にありがとうございます。

さて、今回は令和2年度阿賀野市水道事業会計決算の状況を説明していただきますが、水道を取り巻く社会事情は情勢が大きく変化しています。特に人口減少問題は重要です。水道事業は税金ではなく、すべて利用者の水道料金で賄われていますので、歯止めのかからない人口減少は収入減少が避けられません。それらに関して慎重審議していただき、長谷川副会長と力を合わせて進行していきたいと思っております。皆様よろしく申し上げます。

## 副会長

ただいま副会長に指名をいただき、誠にありがとうございます。審議会の委員の皆さんや事務方の皆様のご指導ご鞭撻のもと、会長を補佐しながら一生懸命務めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

## 会長

それでは次第によりまして進めてまいります。

事務局、議題（２）（３）について順次説明願います。

質疑等については、説明後にお願いします。それでは事務局お願いします。

### 3 議題（２）阿賀野市水道事業の概要

## 事務局

○阿賀野市水道事業の概要について説明。

## 会長

○事務局の説明に対して、質問や意見を諮る。

## 委員

今ほどの説明のなかで、資料10ページ、主要事業計画についてお伺いします。新水道ビジョンに掲げたこの事業計画の中で、建設改良費のグラフがございしますが、令和3年度以降費用がぐっと上昇していますが、この上昇分というのは管路の更新を想定してこうなっているのでしょうか。

## 事務局

建設改良費の上昇分が何によるものなのかという問いかと思いますが、委員の言われるとおり、今後も管路の耐震化に傾注していく必要があります、主にそちらのほうにかかる費用になります。あともう一つ、現在大室浄水場でやっている中央監視装置も億を超える費用になり、増額の要因になっております。中央監視装置については、令和5年度で終了になりますが、管路耐震化についてはなかなか完了の目途が立ちませんので将来にわたってやり続けていく必要があると考えております。

## 委員

初歩的な質問になりますが、事務局としては管路の耐用年数や耐震化のための工事はどれくらいのサイクルで必要と想定し、今の計画の中でどの程度進捗しているのか教えていただきたいと思っております。

## 事務局

管路の耐震化については、令和2年度末で耐震化全体のまだ13%しか進捗しておりません。更新にはそれなりのお金がかかってきますので、一気にやってしまうと事業費がかなり膨らんでしまうということになりますので、そこを加味しながらやっていっております。後は、今やっている中央監視装置については、耐用年数15年ほど、電気計装関係は耐用年数10年といわれていますが、10年では費用がかかりすぎて大変になりますので、概ね15年は使用し、そこから更新という形になると考えています。

## 事務局

管路につきましては、法定耐用年数が38年、約40年ですが、実際にこれで更新するのはなかなか更新費用がかかるということです。ただしこれまで更新しているビニール管やかなり古い铸铁管というのは、そこまで持たない、また地震が来た時に対応できないということで、ビニール管等であれば漏水を防ぐためにも積極的に更新を行っております。それ以外のある程度古い铸铁管についても、耐震性という観点から今後更新をより進めていくことにしております。

## 会長

他に質問はありませんか。

私の方から一つ質問をお願いします。

料金水準について、10m<sup>3</sup>使用したときの、最低が781円となっており、また、最高が2,460円、これは整備費のかかる施設や管の条件の悪い地域だと思います。阿賀野市は人口5万人切っておりまして、だんだん右肩下がりのカーブが崖に近い状況になるのではと危惧していますが、北海道では随分高い水道料金の市があることにびっくりしていますし、神奈川県あたりは本当に安いので、やはり人口の多いところにはかなわないようです。料金が高くなったり安くなったりの対策は何かあるのでしょうか。

## 事務局

まず、料金水準についてですが、給水人口ということではなくて、県内の32事業体のなかでお示ししているところです。

## 事務局

市名までは言えませんが、どちらかといえば安いのは、市町村合併はしていますが水道事業を統合していない地区となっており、また、阿賀野市もそうなんですが、管路の長さの割に人口の張り付きが悪い、水道用語では有収水量密度というのですが、人口密度と同じで、管の更新はしなければならないけれども、どうしても水量が伸びないといったような地域で、水道料金は高くなっているようです。それではどうすればよいのかということですが、人口が増えるということはありませんので、あとは掛かる費用を減らすということになりますが、今のところ、ビジョンにも記載していますが、できるだけ「起債」借入れをしないで、利息を減らして経営状況を良くするとか、施設更新については、全ての施設を更新するのではなく、人口規模に合わせた施設の統合やダウンサイジングを今後は考えていかなければなりません。今のところ施設統合やダウンサイジングについてはしっかりした計画をたてているわけではないのですが、部分的に管径を小さくしたり、必要のないところは布設しないというやり方があります。将来的には施設を少しずつ小さくしていくというようなことも考えていかなければならないと思います。

## 会長

他に何か質問等ありますか。

## 副会長

一つだけよろしいでしょうか。

緊急連絡管整備事業として新発田市との連携が繋がりましたが、あれは乙次地区でしょうか。場所はどこですか。

## 事務局

吉浦になります。吉浦と、昨年度は月岡温泉のほうで繋がりました。

## 会長

他に質問はありませんか。

私の方からお願いします。

地震や台風、大雨など、日本は自然災害が多く、老朽化した管はとても脆弱です。先ほど委員から言われた、铸铁管の布設替えが13%ほどだということで、導水管や送水管、配水管などの布設替えは順調に進捗していないような言い回しでしたが、順調なんでしょうか。早めにやらないと災害はいつ起きるかわかりません。

## 事務局

管路の耐震化があまり進んでいないのではないかというご指摘かと思いますが、確かに言われる通り、耐震化の進捗率はまだ全体の13%しか進んでいないということになります。事業費の関係からいきますと、1キロメートル布設替えするのに約1億円かかると言われています。私共の財政的なものを見ますと、そこに傾注できるのは3億円くらい、年3キロメートルの計画で進めており、今後基幹管路や主要管路など色々ありますので、そちらの方の事業を優先的に進めていきたいと考えております。

## 委員

3キロメートルとのお答えをいただきまして、わたしも大変ショックを受けたのですが、全体の管の長さを考えますと、なかなかそれでは進捗しないのではないかと危惧しております。

私も不勉強ではありますが、今後の新水道ビジョンの取り組み、次の計画の中にも、耐震化の進捗というのは是非盛り込んでいただきたいと思っておりますがいかがでしょうか。

## 事務局

私共としましても、3キロでよいと考えているわけではございません。先ほど申し上げた通り、やりたいのは山々ですが事業費、多額の起債すなわち借金をしてやっていくのがよろしいのかどうなのかというところの判断で非常に悩んでおります。何とか一年でも早く耐震化率をあげていきたいというのが正直な気持ちであります。

## 委員

給水人口がこれからどんどん減っていきますし、もう5万人切っているわけです。全国的にみても黒字でやっていくのは厳しい状況にあります。また世帯数は増加しているというお話でしたが、今後は世帯も減少局面に入っていくと言われていいますので、早めに長期的計画に基づいて、実際損益状況の予測も出ているわけなので、料金の方は早めに手を打ったほうがいいのかと考えます。今後早急に検討を進めていただきたいと思います。

## 事務局

ちなみに県の耐震化率の平均が17.2%ということで、私共は13%ですので、やはり劣っているということです。全体の管路では500km近くあるのですが、力を入れていかなければならないのは、すべてをレベル2地震動、すなわち管の耐用年数の中に1回来るかどうかの規模の地震レベルに対応していかなければならないのかということ、それは難しいのではないかと考えています。それにしましても主要管路と言っている口径200mm以上、そちらの方にできるだけ力を入れていって、そこはレベル2に近づけるということ、そしてそのほかの末端の管については何かあってもすぐ修繕ができるといった対応をさせていただきたいと考えております。基幹管路の方は全体の耐震化率13%より少し進んでいて14.7%となっており、今後も進めていきたいと考えております。

## 会長

事務局にお伺いします。

今ほど言われた末端の管路について、その末端の管路についてはステンレス鋼管を使うということでしょうか。ステンレスは温度や衝撃に強いということで結構使われていると聞いています。

## 事務局

末端のほうは、ポリエチレン管という粘りのある耐震性の優れた管を使っています。ステンレス管については、会長の言われた通り非常に耐震性があり強く腐食もしないのですが、高価であるということなので、これについては、大口径の水管橋のほうに使っているというところであります。

## 会長

他に質問等ございますか。

## 委員

もう一つよろしいでしょうか。

有収水量密度が低いという話がありましたが、他の事業体では給水人口が減っているのに伴って水道の広域化をしていく傾向があると聞いていますが、阿賀野市では広域化のビジョンなどは出ていないのでしょうか。

## 事務局

新水道ビジョンの方でも人口減少ということで、安定した経営をするために、広域化ということも一つのテーマにしております。水道法の改正があり、広域化を推進するために県が主導をとって広域化プランというものを検討しています。新潟県ですと、区域を村上新潟圏域、佐渡も含めて6つの圏域にし、こういったところで広域化を進められないかということを検討しているところです。ただ、新潟県は県のほうで水道事業を持っていません。広域化が進んでいる他県では、企業局（水道事業を含む）という部署があり、広域化をそこでまとめやすいということがあるのですが、新潟県はありません。そのようなこともあり広域化はなかなか進んでいない状況です。その他委託であるとか、連携するといったプランを県のほうで練っている状況なのですが、阿賀野市としてはできるかぎり協力して、そういうものが進めばいいと思っていますが、なかなか厳しい状況ではあると思います。

## 会長

私の方からお願いします。

ここに水のペットボトルがありますが、水道ビジョンにおいしい水ということで言われると思うのですが、今後もっとおいしい水ということで、日ごろ安田の水を飲んでいると他の水は飲めないと言ったら失礼なんです、その差を解消するということについてはどうお考えでしょうか。

## 事務局

今現在、安田給水区の水は100%地下水であり、その他の阿賀野給水区については、地下水が3割、表流水が7割となっております。安田の方からみるとやはり地下水の方おいしく感じられるのかなとは認識はしています。そのような意見を踏まえ、地下水の割合を増やせばいいのかということにもなりますが、地下水の貴重な水源の寿命を縮めてしまう恐れがあります。適正な量を取水していくことで水源をできるだけ長く保ちたいと考え取り組んでいます。他にも、取水した水の処理方法を色々工夫しながら皆様にできる限りおいしい水を飲んでいただくために努力をしているところです。他市などから来られた方には、どちらの水についても、料金は多少高いけれどもおいしいですねと言っているところですので、その評価を落とさないように浄水作業等にも気を付けながら取り組んでいきたいと考えております。

## 会長

安田地区の人口がだんだん減ってくるわけですが、水の方を融通してブレンドしたら、今よりもおいしい水が飲めるのではないのでしょうか。バイパス管みたいなものをつくってはどうか。

## 事務局

将来的に地下水源のほうの使用水量が減ってくればその分余力が出てくるのではないかと思います。管路の切り替え等も必要になりますが、地下水を阿賀野給水区の方へ持っていくことが可能となれば、そういうことも視野に管路の整備等を考えていきたいと思っています。

おります。

## 会長

他に質問等がないようですので、次の議題に移ります。

(3) 令和2年度水道事業会計決算の状況報告について、事務局お願いします。

### 4 議題 (3) 令和2年度水道事業会計決算状況報告について

#### 事務局

- 有収水量の実績について説明。
- 決算概要について説明。

## 会長

○事務局の説明に対して、質問や意見を諮る。

## 委員

減価償却費についてですが、ほとんどが有形固定資産の水道管分になると思うのですが、構築物の償却費の償却ペースというのは、大体先ほどお聞きした耐用年数に基づき40年程度を想定しているのでしょうか。

#### 事務局

決算値でありますので、減価償却につきましては法定耐用年数で計算しております定額法という手法でやっております、これはまだ使えるということでも基本的には法定耐用年数の40年で計算しておりますので、どうしても高い割合になってくるということでございます。

## 会長

他にご意見等ありませんか。

ご意見等も出尽くしましたので、審議の終了を宣言したいと思います。

長時間にわたりましての慎重審議大変ありがとうございました。

【審議会終了】

#### 事務局

○事務連絡を行う。

## 9 問い合わせ先

上下水道局 庶務係

TEL : 0250-62-2159

E-mail : [suidol11@cocoa.ocn.ne.jp](mailto:suidol11@cocoa.ocn.ne.jp)